

シフトレフトのための
実践ガイドと
適用事例の紹介

RICOH
imagine. change.

”わかる“から”使える“へ

2025年9月25日

リコーITソリューションズ株式会社 加茂 悠

共著者: 齋藤 寛典、田口 真義、小笠原 倫子、滑川 梨紗

with you :: with value

所属 リコーITソリューションズ株式会社
デジタルサービス&プロダクツ事業本部 事業推進センター QS推進室

組織の役割 製品・サービスに対する**第三者評価**

スピーカー自身 検証歴・開発歴それぞれ約10年
テスト設計コンテスト'23準優勝(チーム名：爆裂たまご)

[ソフトウェアイノベーションシンポジウム2024](#)登壇：
「シフトレフトで実現する価値提供の新たなアプローチ」



ソフトウェアイノベーションシンポジウムとは

- ・一般社団法人情報サービス産業協会(JISA)が主催するイベント
- ・ソフトウェア開発に携わる技術者や研究者が集まり、最新のトレンド情報や実践的な開発事例を共有し、技術者同士の情報交換や交流を促進することを目的として毎年実施されています



リコーグループに30年以上貢献してきた経験やノウハウを活かし、リコーグループ内外問わず品質の専門家として、テストだけではなく開発プロセス全体の課題を共に解決します



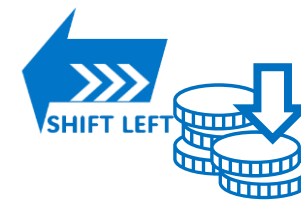
シフトレフトによる
品質向上

品質要求分析を用いて現場を知り、提供すべき価値を正しく捉えることで開発の上流から品質を作りこみ、製品やサービスの利用時品質を高めます



シフトレフトによる
生産性向上

上流品質を向上させることで不明点解消のためのやり取りを削減し、テスト要求を正しく捉え、開発チーム全体の生産性向上に貢献します



シフトレフトによる
コスト削減

下流工程での不具合や要望による手戻りによるコストを削減するだけでなく、リリース後の不満や問い合わせへのサポートコストを抑えることができます

シフトレフト以外にも、様々な支援サービスを提供しております

「シフトレフトで実現する価値提供のアプローチ」
を通じて見えた課題に対し、
実施したこと、そしてその効果を事例とともにご紹介します

ソフトウェア開発に携わる皆様にとって、
価値ある製品づくりをどう実現するかのヒントになれば幸いです

- 「シフトレフトで実現する価値提供のアプローチ」とは
- “わかる”から“使える”へ
- まとめと今後の展望



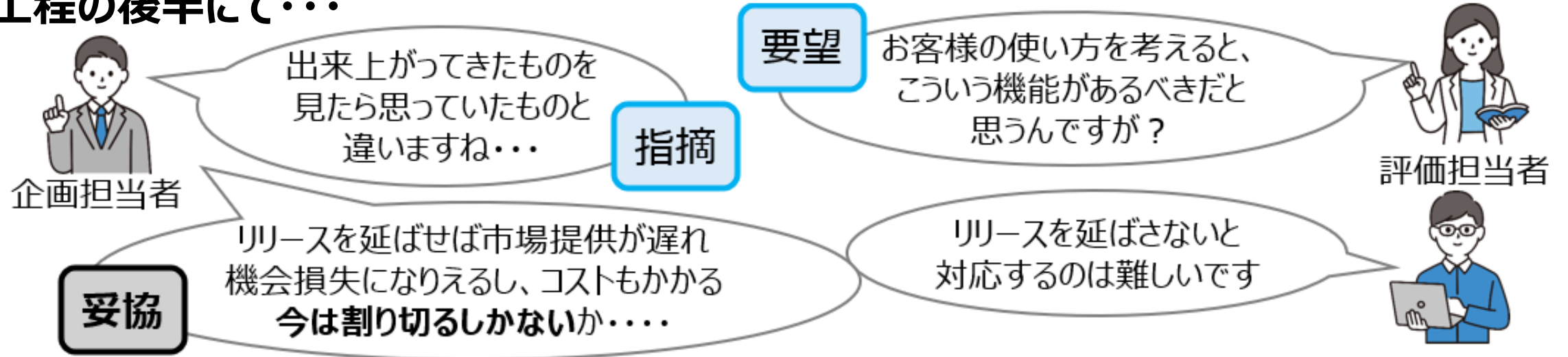
「シフトレフトで実現する価値提供のアプローチ」とは

現場で起きている問題と課題、解決のためのアプローチ
“品質要求分析”と“シフトレフト”とは
新たな課題 ～“わかる”から“使える”へ



「シフトレフトで実現する価値提供のアプローチ」とは 現場で起きている問題と課題、解決のためのアプローチ

開発工程の後半にて...



問題

本当に提供したい価値が**お客様に届かない可能性**がある

課題

対応の**割り切りや先送りを未然に防止するアプローチ**が必要

アプローチ

“品質要求分析”
の導入

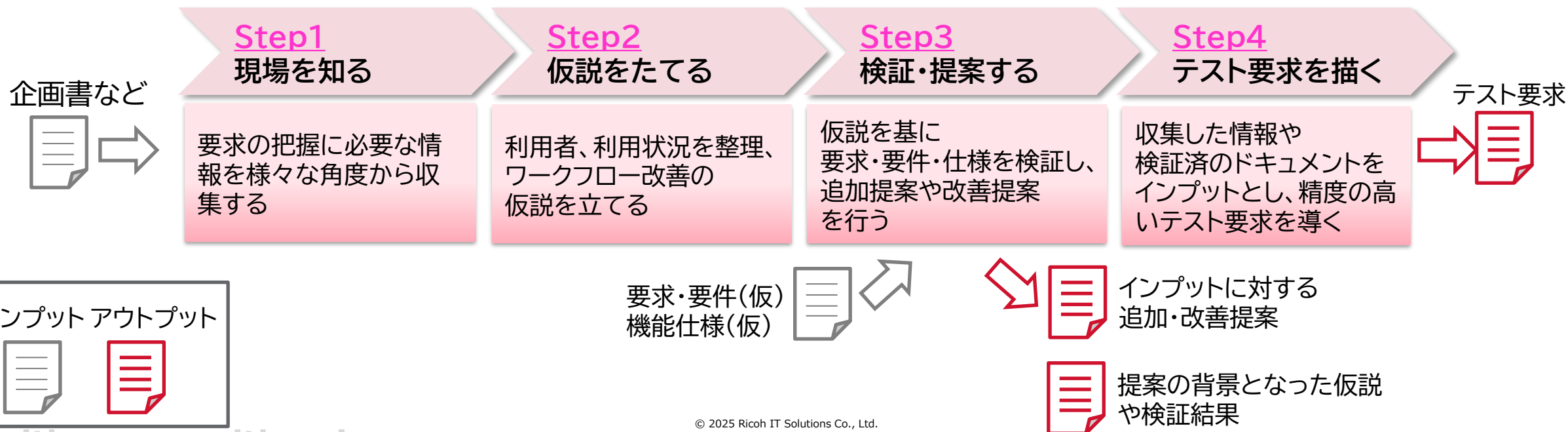
価値検証タイミングの
“シフトレフト”

「シフトレフトで実現する価値提供のアプローチ」とは “品質要求分析”と“シフトレフト”とは

品質要求分析:

提供すべき価値を正しく捉えるための事前調査や仮説立案と改善提案を
評価担当者が実施する

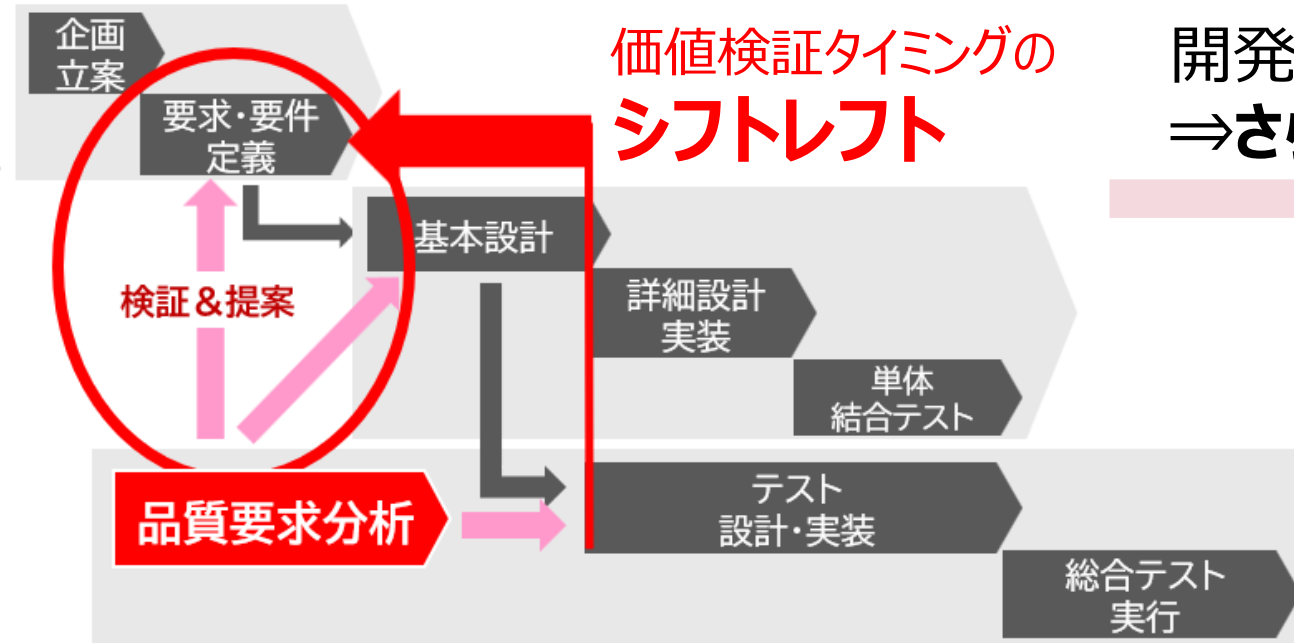
品質要求分析の流れ



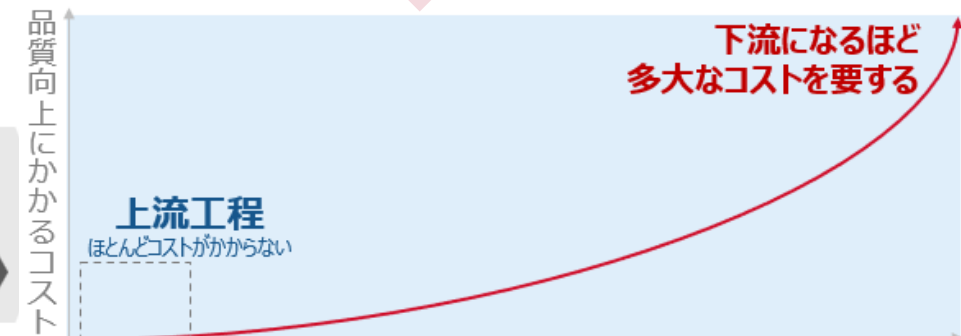
「シフトレフトで実現する価値提供のアプローチ」とは “品質要求分析”と“シフトレフト”とは

価値検証タイミングのシフトレフト:

品質要求分析のアウトプットを 開発の早い時期に関係者間で議論する



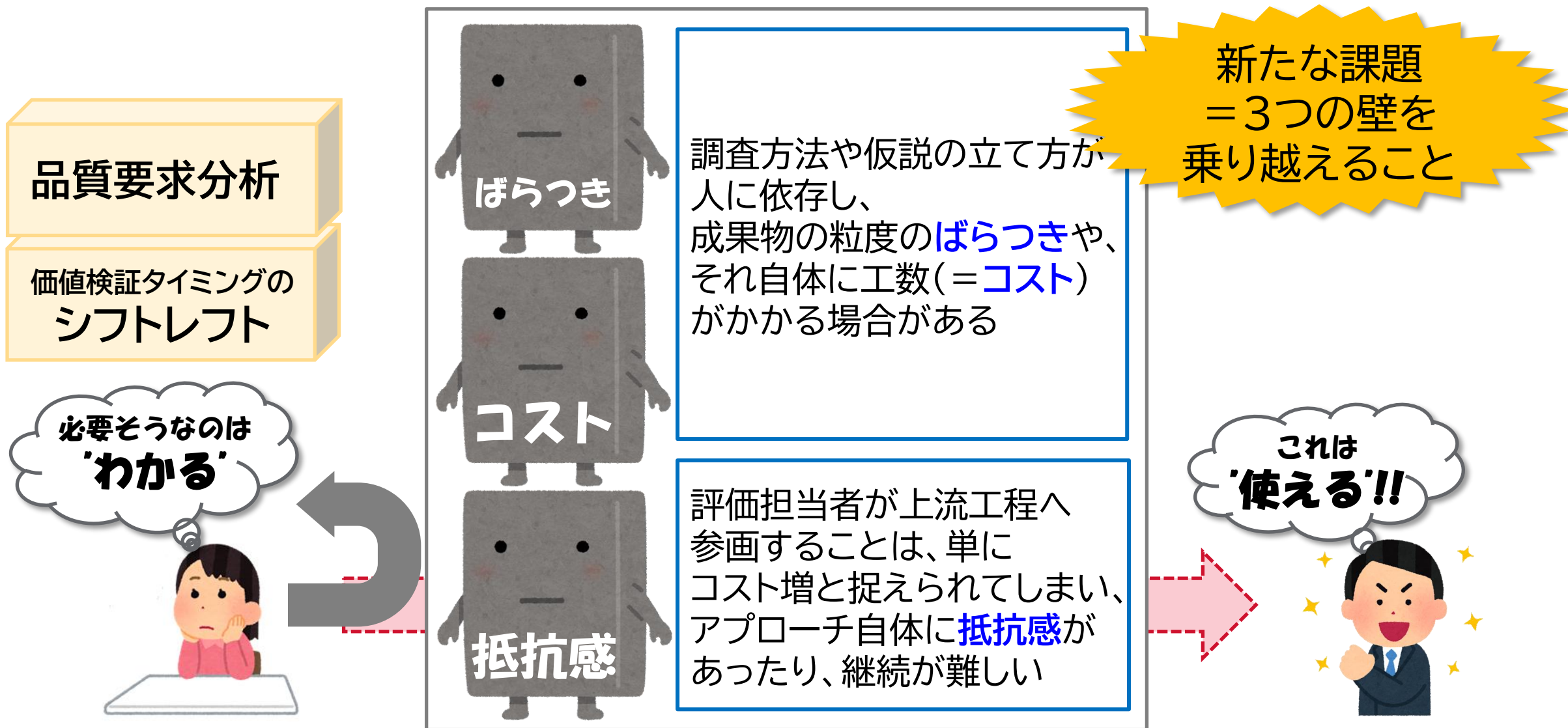
開発後半での割り切りや先送りを未然防止
⇒さらに手戻りコスト削減にもなる！



手戻りコストの法則 引用元：ソフトウェア開発 201の鉄則(日経BP社)J原理41

要求・要件	基本設計	実装	総合テスト	リリース後
1	5	10	20	200~

「シフトレフトで実現する価値提供のアプローチ」とは 新たな課題 ～“わかる”から“使える”へ





“わかる”から“使える”へ

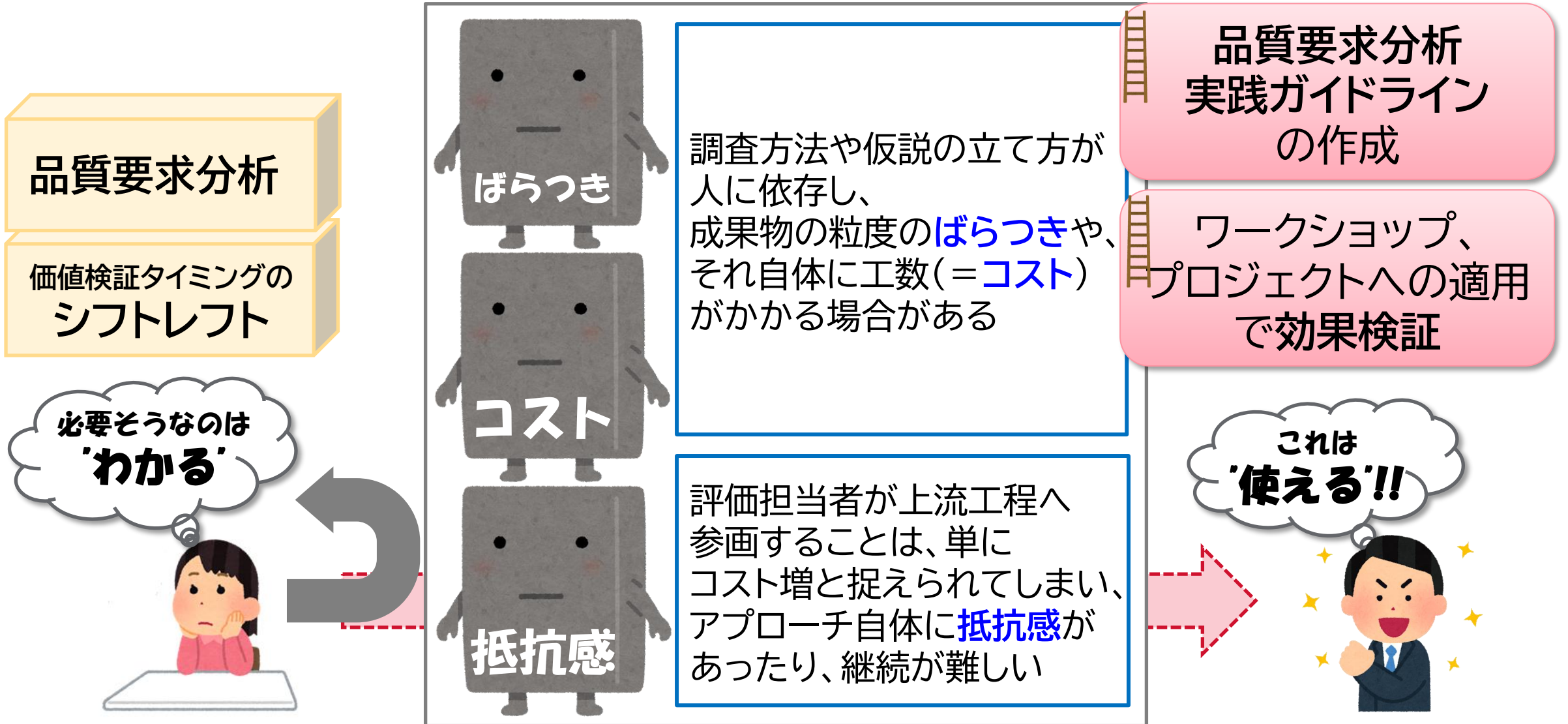
壁を乗り越えるために

品質要求分析実践ガイドラインの作成

「ワークショップ」と「プロジェクトへの適用」による効果検証



“わかる”から“使える”へ 壁を乗り越えるために



“わかる”から“使える”へ 品質要求分析実践ガイドライン

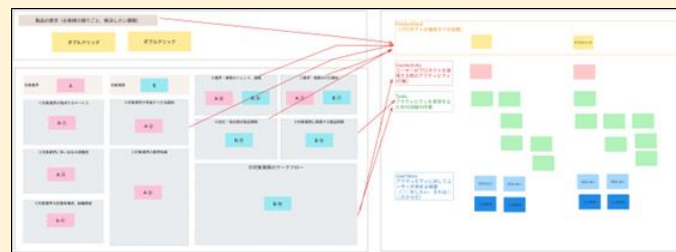
品質要求分析の流れ



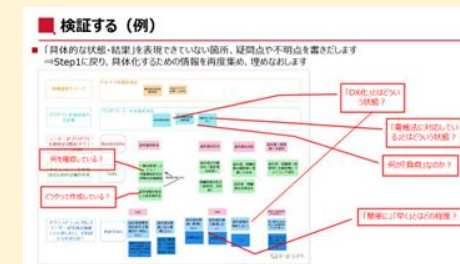
情報入手ルートの例示、
過去の失敗経験などを踏まえた
調査項目ごとの調査目的を解説した資料の提供



Step2のワークシートの項目と
Step1の調査項目をどこに使うかを例示



Step2のワークシートから
検証の仕方、提案の考え方を解説



目的の明示、具体例の提示により進めやすい構成に！

“わかる”から“使える”へ ワークショップによる効果検証

ワークショップの流れ

- ・各Stepを1h、計4h、3名前後で構成する6チームで実施
- ・参加者はテストエンジニア、うち9割は品質要求分析の経験なし

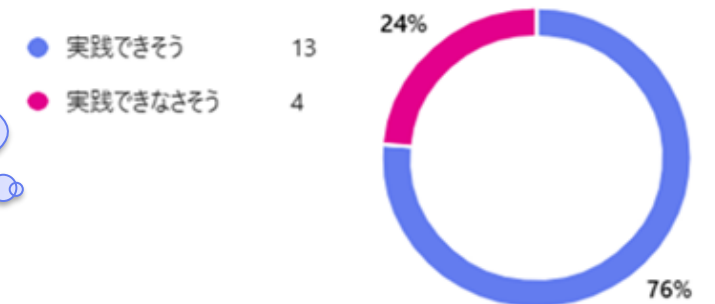
- アンケートでガイドラインの効果をヒアリング
 - 参加者の**7割が「実践できそう」と回答！**

※「実践できなさそう」の理由は、
理解はできたが、実践には経験も必要そう
⇒実践可能になる余地がある回答だった

段階的に何をしていけばいいのかが
分かったので進めやすかった

ガイドラインを使って実践を積むことで、
分析の精度を上げていけそうだと感じた

品質要求分析実践ガイドラインを使って、
実際のプロジェクトで実践できそうと感じましたか？



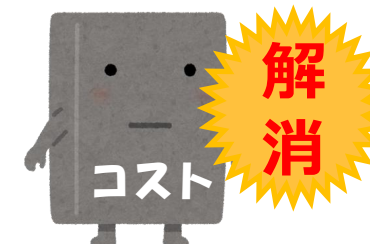
- 各チームの成果物を確認
 - 各チームとも、各Stepのワークシートの6割ほどが記載できており、
限られた時間でも成果が出せることが分かった！

“わかる”から“使える”へ プロジェクトへの適用による効果検証(進め方・コスト比較)

品質要求分析の流れ

	Step1 現場を知る	Step2 仮説をたてる	Step3 検証・提案する	Step4 テスト要求を描く	
Before:ガイドラインなし After:ガイドラインあり					
進め方 (Before)	担当者が 気になったことを 調べる	利用時品質の観点から 気になったことを 挙げる	ここまでの成果物で 思いついた 改善点を挙げる	成果物は 特に定義なし	全体的に 個人任せ 
コスト (Before)	2～3日	2～3日	2～3日	1日	計7～10日
進め方 (After)	調査目的に沿って 焦点を定めて 調査する	調査項目を基に フレームワークを 活用して 仮説を立てる	仮説を立てた フレームワークに 不明点や改善点を 書き込む	ここまでの成果物から 品質目標や テスト観点を抽出し 一覧にまとめる	半減！ 
コスト (After)	0.5～1日	1日	1日	0.5日	計3～3.5日

 調査の焦点を絞ることによるコスト抑制 &
成果物が定義されていることで確実に次工程で使えるアウトプットが出せる！



“わかる”から“使える”へ プロジェクトへの適用による効果検証(成果物の質比較)

品質要求分析の流れ

Step1
現場を知る

Step2
仮説をたてる

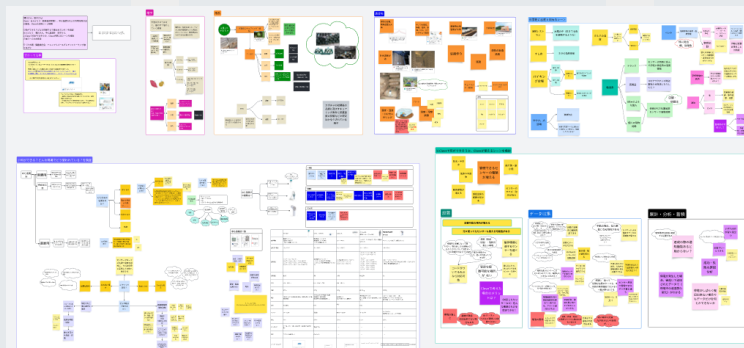
Step3
検証・提案する

Step4
テスト要求を描く

Before: ガイドラインなし
After: ガイドラインあり

全Stepの調査・検討内容を1枚のシートに追記していく

成果物
(Before)



調査や検討の範囲は
担当者次第なので、粒度や
精度の差が出やすい



Step毎に用意されたワークシートを埋めていく

成果物
(After)



調査や検討の範囲が
担当者に依存せず、
まんべんなくできる



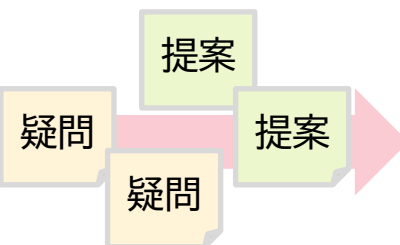
解消



成果物も
整理されて
見やすい！

“わかる”から“使える”へ プロジェクトへの適用による効果検証(提案への反応)

品質要求分析の流れ



こういう資料があると
有用な議論ができるし
**この活動が2～3日程度で
可能なら**
今後ぜひお願いしたい



利用者の目線での要求や
その背景が表現されているので
実現方法も考えやすいです



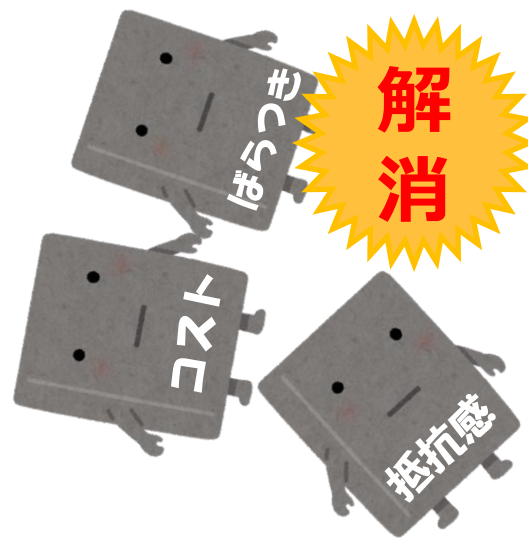
Step3の検証により出て来た疑問や提案を、
成果物と共に関係者に共有し説明



まとめと今後の展望



- 品質要求分析実践ガイドラインによって
“わかる”から”使える”への壁を解消できた！
 - 必要コストは3日程度
 - 成果物は価値検証だけでなく、開発担当者へのインプットにも！



品質要求分析
with実践ガイドライン

価値検証タイミングの
シフトレフト



- ガイドラインを用いた新たな品質要求分析と、
価値検証タイミングのシフトレフトによる
「本当に提供したい価値をお客様に届ける」活動を継続していく
 - 継続しながら、都度、やり方を見直し、改善しながらさらに精度を上げていく
- “使える”の次は、“きく(利く・効く)”へ！
 - 利く：役に立つ、機能や働きが発揮される
 - 効く：効果がある、効果が現れる



品質要求分析
with実践ガイドライン

価値検証タイミングの
シフトレフト

RICOH

リコーITソリューションズ 株式会社

with you :: with value